

や患者さんの役に立った時などは、大変ではあったけれど、薬剤師になって良かったと思いますね。日々、多くの患者さんと接していると、正直言って教科書通りにいかないことばかりです。正解なんてありませんので、分からないことがあると調べてみて、そこで分かることもあるし、分からないこともあるという感じでしょうか。

調べて得た情報を発信する、つまり情報を加工して、他の人が分かるように伝えて役立つこともあります。さらに、今まで知らなかったことを自分で明らかにする研究も行います。研究材料は大学病院にはいろいろありますので、こうした研究や情報発信によって少しでも医療に貢献できたと感じる瞬間は薬剤師になって良かったと思いますね。

——大学病院において薬剤師が他職種とどのように連携しているのか教えてください。

内海 いま薬剤師は病院の中でも薬剤部だけでなく、さまざまな場所に向いて仕事をしています。イメージしやすいのは病棟だと思います。実際に病棟に行って、医師や看護師と共に治療方針を考えたり、患者さんのベッドサイドで服薬指導などを行っています。それ以外に、手術室でも業務を行っています。外科医や麻酔科医と協力して、手術で使う麻酔薬や医療用の麻薬など、管理が厳しい薬の取り扱いに

薬剤師が関わっています。栄養士とも連携しており、薬剤師が詳しい生化学などの知識を生かして、一緒に患者さんの栄養管理をしています。

感染制御にも薬剤師は関わります。病院には、免疫力が低下して感染症にかかりやすい患者さんが多くいるので、病院内でインフルエンザや薬剤耐性菌に感染することは避けなければいけませんし、院内での蔓延も防がなければなりません。感染を広げないように手洗いやうがいを推奨したり、アルコール消毒を啓発する取り組みにも薬剤師が関わっています。

内田 医師は薬について特に専門性の高い内容になってくると、自分の専門領域の薬には詳しいけれど、あまり使わない疾患領域の薬の知識は十分でなかったりします。先ほどジェネラリストという話をしましたが、薬剤師はまず、薬全般のことを把握していなければいけない職業なので、医師が得意でない分野の薬に関する情報提供できるようにしないとイケないんです。そういうことができるのが薬剤師の得意な部分の一つかもしれませんね。

また、医師はその薬が患者さんによく効くかどうか有効性を考えて処方していますが、意外と副作用や飲み合わせを見落としている場合もあります。薬剤師は、そうした薬物治療に関する部分についてはスペシャリストです



左から石井さん、内海さん、内田さん

し、飲み合わせで気がついたことや副作用の可能性を発見したら、医師をはじめ他職種のスタッフに伝え、解決策を提案するなど、医療をお互いに補助けっていくことが重要な仕事だと思います。

——院外でも他職種と連携するケースはあるのでしょうか。

石井 もちろんあります。ただ、院内の多職種連携はスムーズですが、院外の場合は時間を合わせなければならぬので、そこが難しいところです。お互い情報交換や勉強する場は外にもあり、私も薬剤部を代表して参加することもあります。実際に院外で薬剤師以外の職種との連携となると難しいかもしれませんね。

——技術の進歩によって、薬剤師の仕事がなくなってしまうことはありませんか。

内田 それはないと思います。今後、人工知能(AI)がどう発展していくかは分かりませんが、個々の患者さんに応じて治療をどうしていくのか考える「思考」の部分は、まだ人間のほうが優れていると思いますので、そこはわれわれ薬剤師がきちんとやっていたかなければならないと思います。機械は止まってしまうときもありますしね。

いかに機械が進歩しようとも、私たち薬剤師が仕事の原則を知っておく必要があることには変わりはありません。大地震の発生時、いざ機械が止まったら人間が動くしかなくなりますので、調剤やミキシング、薬袋を書くにしても何をしたらいいか分からないでは困ってしまいます。

石井 薬学生は、将来何をするために6年間も勉強するのか、もう一度考えてみましょう。機械の良いところは与えられた仕事を忠実にこなせることで、電源を抜かない限り作業してくれます。もちろん、部品の消耗はあるかもしれませんが、人間よりはるかに継続性が高いし、夜中にセットすれば作業をやっておいてくれます。

ただ、それらは人間が経験した蓄積に過ぎないんです。先ほども話にありましたが、私たちは予測できない出来

(4ページへ続く)

機械が進化しても、最後は人 薬剤師にしかできない仕事を

——日々技術革新が進んでいく中、薬剤師業務に対する先進技術の導入や機械化についてはどうお考えですか。

内海 注射薬のピッキングマシンや抗がん剤調製マシンを導入することによって業務が効率化されます。人間がやらずに済むので、速く確実にピッキングや調製ができ、非常に効率的になると思います。ただ、機械に全て任せるわけではなく、機械から出てきた

薬と処方箋をきちんと照らし合わせて間違っていないかなど、最後は必ず人間がチェックしています。人間がやらなくてもいい部分は、機械に任せるべきではないでしょうか。

機械にできる仕事は、ピッキングなどの単純作業だと思います。正しく「どの薬を、何錠この場所に取り出す」といった作業が機械の得意な部分だと思います。当院の処方箋の中には薬だけ

ではなく、患者さんの身長、体重、性別などの情報が含まれ、腎機能など各臓器機能に関する検査値が記載しており、その患者さんに対して出された処方が本当に適切なかを最終的にチェックできるのは、やはり人間だと思います。

薬だけでなく、サプリメントを飲んでいるかもしれませんし、アレルギーや副作用歴があるかもしれません。そういった部分をケースバイケースで一人ひとりの患者さんに合わせて考える。そういう勉強を薬学部で6年間で学んでいると思うので、最後は人間である薬剤師がやるべきだと思っています。

一日も早く薬剤師になりませんか

確実に進級し、卒業試験を突破し、国試に無事に合格するために

- 個別指導
- プロ講師
- 国試・進級支援
- オンラインサービス

薬学部が6年制になり、薬剤師国家試験に合格することが年々困難になっています。しかしこの困難な国試に合格するためには、まず確実に進級しなければならないのですが、残念ながら今この大前提が大きく揺らぎつつあります。アイファ名古屋は「基礎の理解」こそ、この困難な現状を打破する唯一の方法だと考えています。その正しさは、当予備校の実績が証明しています。なお、インターネットによるオンライン授業も実施しています。詳しくはお問い合わせください。

全国どこからでも受講可能!

Google Yahoo!で **アイファ名古屋** 検索 URL <http://alpha-nagoya.jp/>

薬剤師国家試験合格塾・薬学部進級支援 **アイファ名古屋** に関するお問い合わせ: **052-220-5446**

〒460-0003 名古屋市中区錦2-19-11 綿常HD長者町ビル5F

